

第8回マイケル・ノーベル・サステナビリティ・テクノロジー・シンポジウム 開催報告

日時：2019年11月14日

場所：東工大蔵前会館3階手島精一記念会議室

テーマ：リユース・リサイクル技術

近年地球環境への脅威が増大している。農業で使う大量の肥料が湖や海に流出して有害な藻が繁殖している。空気については北京やニューデリーにおいて呼吸器への問題が顕在化している。水不足への対応策である逆浸透膜法は高価で効率が悪すぎる。プラスチックによる海洋汚染は深刻であり、地球温暖化により洪水が多発している。

これへの対応策として、リユース・リサイクルが注目されている。北欧を含む EU では先進的な取り組みが行われている。日本では環境省が3R (Reduce-Reuse-Recycle) を推進している。これに加えて、消費者の心理分析 (東工大)、最新のごみ焼却技術 (日立造船)、PV パネルのリユース・リサイクル技術について議論した。

シンポジウムに先立ち、同日午前中に最新のごみ焼却設備を持つ杉並清掃工を視察した。

